

私はモルモットⅢ

——学生による授業評価'94, 実施報告——

鳥居元宏

——はじめに——

紀要『芸術』に『学生による授業評価』の実施報告を書くのも、これで3度目になります。前2回では、思いがけない方から感想・御意見を聞かせて頂くことが出来ました。私の期待した若い先生方の反応がどうも鈍いようで、少々ガッカリしていたのですが、最近、そうでもないらしいということが判って来ました。あちこちで他学科の若い先生とお目にかかった折、「映像の鳥居です」と御挨拶すると、「ああ、紀要にレポートを書かれた、あの……」という言葉が返って来たことが何度もあったのです。どうやら関心を持って読んで頂けているようですが、あまり声高に話題にするのは憚られると云った事情があるのかもしれませんが。「物云えば唇寒し……」なのでしょうか……。

平成6年4月1日附で新設された学科長補佐に、どういふ訳か私が任命されてしまい、最も苦手な事務的仕事がふえて困惑しているのですが、反面そのお蔭で、学科長会議や教務委員会に学科長のお供や代理で出席する機会を得て、色々なことを知ることが出来ました。

平成6年6月16日の教務委員会では、オブザーバーとして出席された塚本邦彦理事長が冒頭の御挨拶の中で、「これからの大学は教育によりウエイトをかけるべきだ」という主旨の発言をされ、私の授業評価も、教育改革の参考になるので検討したいと話されました。そして、参考にして欲しいと『一般教育学会誌、第16巻第1号(1994年5月)』に掲載された『東海大学の自己評価の基本方針

および学生による授業評価の信頼性に関するアンケート調査』のコピーが資料として配布されました。

こうした動きが出て来るのも、私の授業評価やそのレポート『私はモルモット』が多少は影響しているのではないかと、などと我田引水して1人悦にっています。

もう1つ嬉しかったのは『学生による授業評価』の集計結果を紀要に公表していると知った4年生が、「へえ、ちゃんとやってるんだ!」と感心して呉れたことです。この学生は、授業評価など学生の御機嫌とりか、私の自己満足だと思っていたようです。出席カードの裏に書いて貰っているメッセージの中にも、「教員は学生に授業について来いと云うのが普通だが、教員の方から学生に歩み寄って貰えるのは、とても嬉しく親近感が持てる」と書いた2年生がいました。大いに勇気づけられるコメントです。

長年続いて来た状況を変えようとする、誤解、抵抗、反発があるのは当然でしょう。特に安定志向が強く、波風の立つのを厭がる大学内部で何かを変えようというのは至難の技であることは、大学改革に関する本を読めば読むほど判って来ます。然し、今のままでいい筈はありません。特に我が大阪芸術大学は、最早や発展途上大学ではないと思います。完成期、成熟期に入った大学であるにも係わらず、今だに学校発足当時の古い、原始的な方法で事が解決すると思っている方々がかなりいるのには(しかも、比較的若い方々に多いのには)、茫然とさせられます。教務委員会の配布資料・東海大学の調査報告にこんな言葉がありました。「どうやら教育が大きな成果を収めるのは最善の方法によるのではなく、最善の方法

を求めようと模索する意志が働いた場合であるように思われる」と。この言葉の意味するところは大きいのではないのでしょうか。常に何かを求め続ける。安定してしまっただけでは大きな教育成果は望めないぞ、と云っているように私には思えます。仮に、最善だと思える方法を手に入れたとしても、そこで安心してしまっただけではあとは腐るだけです。更に最善の最善を求める意志を持ち続けられないのではありません。

私の授業評価、その実施報告も、小さな目立たないものかもしれませんが、あちこちで反応も出始めているようですので、結果を急がず、続けて行きたいと思っています。

——第3回の調査——

平成6年12月13日、5時限、第1回第2回の調査を行なったと同じ、私の担当する講義科目『映像演出論』に於て、第3回の調査を行ないました。

今回は、前2回と調査票を変え、設問の中を少々広げてみました。こうした調査を行なうこと自体を学生達がどう思っているのか、個人的に何人かからは感想を聞いたりレポートのレポートを貰ったりして聞いてはいたのですが、全体としてどんな感想を持ち、どう評価しているのかを知る為の設問と学生自身に自分の受講態度を評価させる設問を作ってみました。ベースは従来通り多摩大学の調査票を使わせて頂き、それに、教務委員会で配布された東海大学の資料の中にあつた調査票と放送教育開発センター教授喜多村和之著『新版・大学評価とはなにか』に所載の喜多村先生の調査票にあつた設問から幾つかの設問を頂いたり、ヒントを得て設問を作ってみました。私がアレンジしました。資料①がそれです。『芸術16』に掲載してある前2回の調査票と比較して頂けると、変更点、狙いがよく判ると思います。調査票を5つのセクションに分け、Ⅰでは授業評価その物について問う設問、Ⅱではこの授業（鳥居担当の『映像演出論』）に関する設問、Ⅲは教師と履習科目全体についての設問、Ⅳは授業を良くする為の自由意見、Ⅴは出来れば学生番号・氏名を書いて貰う欄にしました。Ⅴについては、や

はりこうした調査は無記名でやるべきだという意見、無記名にすると無責任な記入をする学生が必ず何人か出るのでこの儘でいいとする意見、賛否両論があるようですが、私としては、学生に真面目な責任ある回答を期待したいので、この欄は残すことにしました。

平成6年度の受講登録者は103名、当日の出席者53名、出席率51.45%、かろうじて過半数を越えた程度だったので残念です。前週の授業で、次回は授業評価を行なうと予告、出来るだけ出席するよう仲間に伝えて欲しいと云っておいたのですが、あまり効果はなかったようです。尤も、このところ55名、59名、52名と大体出席数が固定しているので、この程度なのかもしれません。

調査票を回収してみると、妙なことが起っていました。出席者は53名なのに回収した調査票が51枚しかないのです。授業には出席しながら調査票を提出しなかった学生が2名いたということです。これは何を意味するのでしょうか……。こうした調査を行なうことに対する無言の批判と受取るべきなののでしょうか、それとも、もっと気軽なものなののでしょうか……。

それと1枚、5段階評価の設問総てを1に丸をつけ、その他の設問に対す回答も明らかにふざけていると判断出来る物がありました。これをどう扱うべきか、大変迷ったのですが、集計作業を頼んだ副手諸君の意見がこんな無責任なものは除外すべきだというのが圧倒的だったので、集計には加えないことにしました。前2回ではこんなことはなかったのですが、どう解釈するべきか迷うところです。御意見をお聞かせ下さい。

——調査結果の集計と分析——

調査結果の集計は、これ迄通り副手諸君に頼みました。研究室のパソコンを仕事の合間に借用、アツという間にまとめて呉れました。資料②がその集計結果です。

この結果をどう解釈するか、私なりの分析をしてみます。

Ⅰ、授業評価について。

問1では、68%の学生が授業評価は必要であると回答、

不必要だとしたのは6%、3名だけで、やはり授業評価は大切なようです。いちがいにいけない、わからないという回答が24%とかなり多いのは、何事も「ま、いいか……」と曖昧なままで通りすぎてしまい、痛痒を感じない若者気質の現われなのかもしれませんが、何となく釈然としないものが残ります。

問2は、何故必要か、何故不必要か、その理由を自由に書くわけですが、必要な理由に「評価される講師の意識が多少変るから授業のマンネリ化が防げる」「理解してるか、させてるかを知るの必要」「興味ある分野でも、授業が面白くないと、その分野への探求心まで失われる」「講師と学生は教え教えられる関係で一方通行であってはならない」「云いたくても云えない意見が書ける」等々大変積極的な回答が目立つのに比べて、不必要な理由の方は、「学生が先生に要求する事自体が、たとえ正しい要求であっても、我ままなのではないか（表現がやや曖昧なので鳥居が整理、解釈した）」「先生はドンと構えてほしい」「無理に受けさせられる授業ではなく、生徒が選択した授業だから」等々、少々受け身で消極的な理由が多く、不必要だと答えた学生も、何処かで多少は必要性を感じているのではないかと解釈するのは、手前味噌がすぎるでしょうか……。いちがいにいけない、わからない理由の中に「評価する教授がどう受け止めているのか疑問だ」というのがありましたが、この学生は紀要の存在を知らないようです。このレポートを読んで貰いたいところですが、氏名の記入がなかったのが残念です。私が少々ひっかかったのは「なぜかテレル」というのがあったことです。軽い気持で「先生に点をつけるなんてテレちゃうなあ！」というのなら問題ないのですが、若し、小中高校とあてがい扶持のやや押しつけがましい授業を受けて来た結果、受け身の姿勢に馴れてしまい、授業とは押しつけられるものだと思いこみ、それを評価することに戸惑いを感じているのだとしたら、大変問題なのではないでしょうか……。良いものは良い、悪いものは悪いと的確に判断、何故良いのか何故悪いのかを探求する姿勢を持たねば1人前の人間として社会へ出てから通用しないでしょう。この学生が軽い気持で書いたことを祈りたいと思います。

II. この授業について。

問1から問4までは今回新しく作った設問で、『映像演出論』の授業内容に関する設問です。問1は66%、問2は72%、問3は76%、問4は54%の学生が評価5と4に丸をつけていますので、大体において授業はうまく行ったと見ていいかと思います。問5は前2回も使った設問で、概ね前2回と似たような結果が出ているようです。授業の良い点では、「1. 丁寧にわかりやすい」「2. ポイントを押さえている」「8. 雑談やエピソードが面白い」「11. 人柄に親しみが持てる」「12. 口調が明瞭で聞き取りやすい」は良い評価が出ていますが、「4. 説明が体系的」「5. 内容に深みがある」「6. プリントやスライド、OHPの使用が効果的」という項目が低く、この辺りに欠点があるということになります。昨年一昨年も殆んど同様の結果が出ており、改善が不十分だということで努力の不足を感じます。「13. その他」の記述の中に「どの授業より出席者が多く、全体の雰囲気が良い」というのがあり、嬉しい限りです。授業の悪い点では「6. 関連事項の説明が少ない」「9. 授業が平板で単調」が圧倒的に多く、「14. その他」に「黒板をもっと使ってほしい」というのがあったのも昨年同様で、此处でも改善不足が歴然としており、お恥かしい限りです。ただ、「1. おしゃべりを注意してほしい」という項目が8%と低くなっているのは多少は努力の効果が出ているということでしょうか……。生徒が静かすぎる。もっと生徒に質問を投げかけてみたらどうか」という提案がありましたが、以前からやっている出席カードの裏のメッセージ、質問は毎回書くように促し、質問には答え、こちらの意見も話すようにしているので、授業の双方向性（教師が一方向的に喋るだけでなく、学生の反応を促す）は保たれているとは思いますが、授業の平板さ、単調さを救う意味で途中に対話を挟むのも良いかもしれません。一工夫してみる必要はありそうです。

III. 教師・履修科目の全体評価では、問1、問2、問4は昨年もやった設問で、問3、問5は新しい設問です。問1は評価5と4が72%、評価1はゼロ、問2も78%が評価5と4で評価2と1はゼロですので大変高く評価されているようで嬉しい限りです。新しく作った問3は学

生の受講態度を問う設問ですが、「1. 真面目に聴講した」が50%あるのに対して「5. その他」が40%もあります。「真面目に聴講した」わけでもなく、「たいくつで寝ていた」わけでもなく、「友人と私語していた」わけでもなく、「出席カードだけを書きに来た」わけでもない受講態度とは一体どんな態度なのでしょう。ただボヤーンとしていたということでしょうか……。問5, アンケートの設問の適否を尋ねる質問は、回答が散っているようですが、評価5, 4, 3が82%なのでマアマアの設問設定だったということでしょう。問4, 出席率では、50%の学生が10%以下の出席率だと回答していますが、これでは半分の学生が不合格だということです。然し、出席日数不足での不合格者は22名で21.35%,この回答は控え目に見たということなのでしょう。

IV. 授業をよくする為の自由な意見では、「もう一段階発展して映像演出論Ⅱがほしい」「現役の役者やスタッフと話したい」「演技と演出の授業をわけてほしい」「演出法をその場でやってほしい」と云った意見が目立ちましたが、この辺りを検討してみると演出という仕事の難しさが垣間見えて来ます。

演出という仕事には実体がありません。勿論、初歩的基礎の部分には、マニュアル化、パラダイム化が可能な理論や技術・技巧もありますが、大部分は、演出者個人の人格・人柄に係わる仕事です。脚本の中に概念的に存在する人間像をどう解釈し、どう造形するか。俳優の能力をどう引出すか。数十人のスタッフをどうまとめ、スペシャリストとしての各々の力をどう引出し作品に反映させるか。これが演出という仕事の中心をなす作業で、総ては人間関係の処理能力、つまりは演出家の人格・人柄に係わることなので、とてもマニュアル化、パラダイム化は出来ません。しかも、作品個々のあり方、テーマによってそれが微妙に変化するのですから、非常に講義しにくい領域なのです。

この授業を担当することになった時、私も随分悩んだのですが、結局は、マニュアル化パラダイム化の可能な基本を講述し、あとは私個人の現場経験にどうつなげて行くか、基本の発展とアプリケーション能力の開発を個々のケースを土台に講義するより仕方ないのではないかと

いう結論に達し、そうして来たのですが、学生達には、仲々結論を出さない私の講義がもどかしくて仕方ないようです。こうすればこうなるという結論、明解な答を求めているのです。然し、結論を出さないのではなく出せないのだということを知ってほしいのです。結論を出せないというより、結論が多すぎると云うべきなのかもしれません。面白くて、説得力があり、沢山の人を感動させるものを引出し造形化すれば、結論は何でもいいのです。その為には、演出家は何でもやります。やらねばならないのです。それが演出という仕事です。

答は、学生一人一人が自分で出すものであって、それが芸術創作というものでしょう。

然し、学生のもどかしさを多少でも解決してやりたいので、一昨年の秋から一つの試みとして、私が講師をしている東映京都撮影所附属俳優養成所の私のレッスンを希望者に見学させるようにしています。このレッスンは俳優の玉子達を指導するわけですが、教えるというより私が生徒達を演出し、その中から演技の基本を掴ませるといった傾向が強いので、見学させることでこの講義しにくい部分を悟らせようと考えたのです。これまでに20人ほどが見学に来たでしょうか。今のところまだどんな効果があるかは明確になっていませんが、必らず何か掴める筈です。勿論、学生個人の能力にもよりますし、芸術創作は個人の素質が土台になるものですから総ての学生にこのやり方が通用するとは思えません。暫く続けてみるつもりですが、やはり学生の要求している映像演出演習といった科目の開講も必要なのかもしれません。今でも演出関係の演習科目はあるのですが、テレビのスタジオ・ドラマが中心の科目なので若干ニュアンスの違いがあるようです。今後の検討課題でしょう。

「ノートをまとめるのがしんどいのでプリントや教科書を作ってほしい」という意見が、昨年一昨年に続いてまた今年も出ていますが、これは感心しません。日常的に自分の周囲で起る様々な出来事をよく観察し、その中にひそむ人間性の発露を発見、作品の中に生かすのが演出の出発点です。講義のポイントを掴み、ノートにまとめられないような人間に演出が出来る筈がないというのが私の考え方なので、この意見はどれほど沢山の学生が

要求しようが応じるつもりはありません。それが、学生達に芸術創作の出発点である観察眼をつけさせることに通じると考えるからです。

V. 学生番号、氏名の記入。

82%が記入してありました。一昨年は79.4%、昨年は82.1%、そして今年は82%、殆んどの学生が堂々と氏名を公表した上で授業評価をしてくれているのです。これは大変に良いことではないでしょうか。我が身を隠してコソコソと陰険に他人を批判するような人間に芸術創作は出来ません。芸術作品とは、出来が良かろうが悪かろうが堂々と作品を世間の目に晒して、どんな批判も真正面から受け止める覚悟のある者だけが創造しうるものだと思います。堂々と氏名を公表するのは、芸術家を志す者として当然の姿勢であり、いい覚悟だと思うのですが、如何でしょう？

——集計結果の報告と反応——

前回、前々回と同様、『映像演出論』の最終授業で集計結果のコピー（資料2）を配布し、私の分析、感想を話しました。

その日の出席カードの裏に、「本当に改善を要求したい授業は他にあります。他の先生にも授業評価をやるよう進めてほしい」「水準の低い授業にこそこうした調査は必要なのに、そういう先生は逃げてしまうので改善を要求する場がないのが残念です」というコメントが書かれていました。後日、コンパの席でこの辺りを話し合ってみました。熱心で授業を大切に先生だからこそこうした調査をやろうという気にもなるのだ。不熱心で授業をいい加減にしている先生は、こうした調査をやろうという気さえ起さない。だから、学生の側から見ると、あまり批判や改善点のない先生が批判の場を作り、本当に批判し改善を要求したい先生は、逃げ隠れして批判の場さえ作ろうとしないから、良い授業はどんどん良くなるし、低水準の授業はいつまでたっても低水準のままで停滞し放しで、双方の格差はどんどん離れるばかり、本当に批判し改善を要求したい先生を何とかこうした調査の場に引っ張り出すことは出来ないものだろうかと思

っていました。

確かに一理ある発言でしょう。個人で授業評価を行なうことには限界があるのかもしれませんが。総ての授業について調査を行なうからこそ、良い授業と悪い授業が対比出来て、反省点が浮彫りに出来るのでしょうか。

では、私のやっていることは無駄なのでしょうか？ そういう声もチラホラ聞こえて来ます。授業評価などやって何になるのだ、物好きな、という声が。

このことを学生達に質問してみました。

「そんなことはありません！ 誰かが石を放り込んでキッカケを作らなければ……。その意味で授業評価は大きな意味があります。やめないで続けて下さい。一人きりでも続けるべきです」

と云って呉れました。

勿論やめるつもりはありません。物好きだと云われようと無駄だと云われようと、学生達の役に立ち、尚かつ私も納得出来る授業とはどんなものかを探る為に、学生による授業評価は続けるつもりです。

——まとめ——

今回の調査から、調査票を変えてみました。より多角的に自分の授業を見たいと考えたのと、この授業評価を学生達がどう見ているのかを知る意味で設問の中を広げたのですが、少々欲張りすぎて巾を広げすぎ、回答が散り焦点がぼけてしまったような気がするのですが、どんなものでしょうか……。

調査票の作製で参考にさせて頂いたのは多摩大学、東海大学など一般大学のものです。芸術系の大学は、全大学の中では特殊な位置づけがされて当然でしょうから、芸術系の大学らしい調査票が要求されるのも当然でしょう。そのことは良く判っているのですが、さて、それがどんなものかとなると大変難しく、参考になる資料もないので仲々それらしいものが作れません。ただ、側聞するところによると、アメリカの芸術系の大学では、担当する教員が作家である場合には、その教員の作家としてのあり方や作品批評にまで調査内容が及んでいるそうです。やはりそこまで踏込まねば正当な評価は出来ないも

のなのか、それとも、授業のみに絞っていいものなのか、判断が難しいところです。まだまだ試行錯誤が必要なのでしょう。教育その物を研究対象にしておられる先生方に御教示頂ければ解決するか、とも思いますが仲々機会を得ません。

ただ、比較する対象が欲しいので、本年度の調査ではもう一度だけ、中途半端かもしれませんがこの調査票を使ってみたいと考えています。

それからもう一つ、今は素人の私が自分勝手に調査結果の分析をやっているのですが、果たして正当な分析がなされているのかどうか、統計学や各種リサーチを御研究の先生方の御意見も伺ってみる必要がありそうです。

最後に、今だに参考にさせて頂いている多摩大学の調査票の使用をお許し下さった多摩大学の中村秀一郎先生、私の調査を黙って見守って下さっている映像学科長佐々木侃司先生、集計作業をして呉れた副手諸君、調査に参加した学生諸君にも、深くお礼申し上げます。

それに、若し私と一緒に『学生による授業評価』をやってみたいという先生がおられましたら御連絡下さい。そんな『物好き』はいらっしゃらないかもしれませんが、お待ちしております。

参考文献

- 新版・大学評価とはなにか、喜多村和之著、東信堂、1993
- 1991年12月度、多摩大学、ボイス（学生の声）調査報告概要、多摩大学 VOICE 委員会
- フォーラム、東海大学の自己評価の基本方針および学生による授業評価の信頼性に関するアンケート調査、東海大学教育研究所、一般教育学会誌第16巻第1号、1994年5月（平成6年第1回教務委員会配布資料）

—— 資料① ——

学生による授業評価

これは試験ではありません。授業をより良くする為の資料です。無記名でも結構ですができれば学生番号・氏名を書いて貰うとありがたいです。勿論、成績には無関係。真面目な回答を、期待します。

〈平成6年度 鳥居元宏担当の「映像演出論」の授業について〉

I 授業評価について

- 問1. 大学の授業を学生が評価することを必要だと思いませんか？ 不必要だと思いませんか？ 番号に○をつけて下さい。
1. 授業評価は必要である。
 2. 授業評価は不必要である。
 3. いちがいにいえない。わからない。
 4. その他の意見
- 問2. なぜ必要なのか、或いはなぜ不必要なのか、意見を書いて下さい。

II この授業について

- 問1. シラバス（授業内容）に沿って予定通り、授業が行なわれましたか？
- | | | | | | | | | |
|------------|---|-----------|---------------|---|------------|---|--------------|---|
| 全く
そう思う | 5 | そう思う
4 | どちらとも
いえない | 3 | そう
思わない | 2 | 全くそう
思わない | 1 |
|------------|---|-----------|---------------|---|------------|---|--------------|---|
- 問2. シラバスに記載された授業の目的は、授業の中で明確でしたか？
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|
- 問3. 授業の内容に興味を持ってましたか？
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|
- 問4. 教室内の秩序（勉強しようという雰囲気）は保たれましたか？
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|
- 問5. この授業について良い点、悪い点があれば、次のうち該当する番号にいくつでも○をつけて下さい。

良い点

1. 丁寧でわかりやすい
2. ポイントを押さえている
3. 基礎的なことから説明する
4. 説明が体系的でまとまっている
5. 内容に深みがあって教養を感じる
6. プリント・参考文献の使用が効果的
7. ビデオ・スライド・OHPの使用が効果的
8. 雑談やエピソード的な話が面白くためになる
9. 熱意がある
10. 授業にメリハリ（活気）がある
11. 人柄・授業に親しみが持てる
12. 口調が明瞭で聞き取りやすい
13. その他（)

悪い点

1. もっとおしゃべりを注意
2. 説明をもっと詳しく
3. 説明がくどく無駄が多い
4. ポイントがはっきりしない
5. 説明が体系的でない
6. 関連事項の説明が少ない
7. 面白みに欠ける

8. 自分勝手に進める
9. 授業が平板で単調
10. 声が小さく聞こえにくい
11. 口調が小さく聞き取りにくい
12. ログもり聞きづらい
13. メリハリがない
14. その他 ()

III 教師、履修科目の全体評価について

- 問1. あなたにとって、この科目担当の教師の全体的な教育効果をどのように評価しますか。
- 5 4 3 2 1
- 問2. 授業内容を中心に考えた場合、この科目は大阪芸大映像学科の他の科目と比較してあなたの親しい先輩が履修するに値する科目だと思いますか。
- 5 4 3 2 1
- 問3. あなたはこの授業中、どのような態度で臨みましたか？番号に○印をつけて下さい。
1. 真面目に聴講した
 2. たいくつで殆ど寝ていた
 3. 友人と私語をしていた
 4. 出席カードだけを書きに来た
 5. その他
- 問4. この科目にどの程度出席しましたか。
1. 10%以下
 2. 30%前後
 3. 50%前後
 4. 70%前後
 5. 90%以上
- 問5. このアンケートの設問は適切でしたか。
- 5 4 3 2 1

IV 授業内容を良くする為の意見があれば遠慮なく書いてください。

V できれば学生番号・氏名を書いてください。

— 資料② —

学生による授業評価集計表

I. 授業評価について

- 問1. 大学の授業を学生が評価することを必要だと思いますか？ 不必要だと思いますか？ 番号に○印をつけて下さい。

項 目	人数	%
1. 授業評価は必要である。	34	68
2. 授業評価は不必要である。	3	6
3. いちがいにいえない。わからない。	12	24
4. その他の意見。	1	2

- 問2. なぜ必要なのか、或るいはなぜ不必要なのか、意見を書いて下さい。
- 「1. 必要である」と答えた生徒
- ・評価される度に講師の方の意識が多かれ少なかれ変わってくる訳だから、授業のマナー化が防げる。
 - ・大学側も授業の様子を知る必要がある。
 - ・理解してるか、させるかを知るのは必要だと思う。
 - ・興味ある分野の授業をうけたとしても、その授業内容が面白くなければその分野に対する探求心が失われるかもしれ

ないから……。

- ・学生が何を期待し、何を知りたいのかを知る必要があると思う。
 - ・大学の授業は義務教育ではなく、生徒の希望によって行なわれるのだから、その希望を聴く姿勢は大事だと思う。
 - ・大学では、講師と学生は教え教えられる関係で、それが一方通行であってはならないと思う。
 - ・学習するにあたって、やはり授業中の環境はある程度必要であり、又それを維持していく為にも必要だと思う。
 - ・評価する事によって意見を言いたくも言えない様な事まで、書く事が出来る。
- 「2. 不必要である」と答えた生徒
- ・学生が先生に要求する事なんて当たり前前の事がずるくてわがままな事だと思う。
 - ・先生はドンと構えてほしい。それをどう受け止めるかは生徒による。
 - ・必要である理由もない。それ故不必要であると思う。
 - ・無理矢理受けさせられる授業ではなく、生徒が選択した授業だから。
 - ・鳥居先生の場合、つまり生徒が授業をどう思っているかを考えている場合は必要ないと思う。
- 「3. いちがいにいえない。わからない」と答えた生徒
- ・授業評価はあってもよいが、その評価を教授がどのように受け止めているのか疑問に思う。
 - なぜ？ どうするため？ どうやって？ これら3つの点を事前に明確にして、生徒にアンケートを書いてもらう事が大切だと思う。
 - ・なぜかテレル。
- 「4. その他の意見」と答えた生徒
- ・授業にもよる。

II. この授業について

	5	4	3	2	1	得点
問1. シラバス（授業内容）に沿って予定通り、授業が行なわれましたか？	3	30	16	1	0	185
	6	60	32	2	0	74
問2. シラバスに記載された授業の目的は、授業の中で明確でしたか？	7	29	13	1	0	192
	14	58	26	2	0	76.8
問3. 授業の内容に興味を持ちましたか？	15	23	11	1	0	202
	30	46	22	2	0	80.8
問4. 教室内の秩序（勉強しようという雰囲気）は保たれましたか？	7	20	16	7	0	177
	14	40	32	14	0	70.8

- 問5. この授業について良い点、悪い点があれば、次のうち該当する番号にいくつでも○をつけて下さい。

○良い点

項 目	人数	%
1. 丁寧でわかりやすい	22	44
2. ポイントを押さえている	25	50
3. 基礎的なことから説明する	17	34
4. 説明が体系的でまとまっている	9	18
5. 内容に深みがあって教養を感じる	5	10
6. プリント・参考文献の使用が効果的	1	2

項 目	人数	%
7. ビデオ・スライド・OHPの使用が効果的	11	22
8. 雑談やエピソード的な話が面白くなる	26	52
9. 熱意がある	17	34
10. 授業にメリハリ（活気）がある	11	22
11. 人柄や授業に親しみが持てる	24	48
12. 口調が明瞭で聞き取りやすい	46	92
13. その他	3	6

〈良い点のその他の記述〉

- ・他のどの授業よりも出席者が多く、全体の雰囲気が良い。
- ・実践的である。

○悪い点

項 目	人数	%
1. もっとおしゃべりを注意	4	8
2. 説明をもっと詳しく	7	14
3. 説明がくどく無駄が多い	7	14
4. ポイントがはっきりしない	5	10
5. 説明が体系的でない	6	12
6. 関連事項の説明が少ない	11	22
7. 面白みに欠ける	3	6
8. 自分勝手に進める	2	4
9. 授業が平板で単調	10	20
10. 声が小さく聞き取りにくい	0	0
11. 口調が小さく聞き取りにくい	0	0
12. 口ごもり聞きづらい	0	0
13. メリハリがない	4	8
14. その他	9	18

〈悪い点のその他の記述〉

- ・黒板をもう少し使ってもらいたかった。
- ・資料になるプリントなり冊子をもっと多くいただきたい。
- ・生徒が静かすぎる。もっと生徒に質問を投げかけてみたらどうでしょうか。
- ・もっと映画を見ながら授業をすすめてほしい。前期の「第3の男」のような感じ。
- ・時間が遅いので多少疲れて集中できなかった。

III. 教師、履修科目の全体評価について

	5	4	3	2	1	得点	その他
問1. あなたにとって、この科目担当の教師の全体的な教育効果をどのように評価しますか。	11	25	11	2	0	192	1
問2. 授業内容を中心に考えた場合、この科目は大阪芸大映像学科の他の科目と比較してあなたの親しい後輩が履修するに値する科目だと思いますか。	21	18	11	0	0	210	
	42	36	22	0	0	84	

問3. あなたはこの授業中、どのような態度で臨みましたか？番号に○印をつけて下さい。

項 目	人数	%
1. 真面目に聴講した	25	50
2. たいくつで殆ど寝ていた	6	12
3. 友人と私語していた	1	2
4. 出席カードだけを書きに来た	3	6
5. その他	20	40
ノーコメント	1	2

問4. この科目にどの程度出席しましたか？

項 目	人数	%
1. 10%以下	25	50
2. 30%前後	6	12
3. 50%前後	1	2
4. 70%前後	3	6
5. 90%以上	20	40

	5	4	3	2	1	得点
問5. このアンケートの設問は適切でしたか。	11	16	14	8	1	178
	22	32	28	16	2	71.2

IV. 授業内容を良くする為の意見があれば遠慮なく書いてください。

- ・ノートをまとめるのがしんどいので、プリントや教科書を作ってほしい。もしくは、黒板やスライドでの説明をしてほしい。
- ・もう一段階発展してほしい(映像演出論IIというものがほしい)
- ・現役の専門分野の方々(役者やスタッフ)から多くの生の意見や考え方を聞きたい。
- ・もっと、作品(映画ドラマ)を例にとりて、教えて欲しい。
- ・以前、先生が言っていた“対談形式”の授業もぜひやって欲しい。
- ・演技と演出の授業をわけてほしい。
- ・疲れがたまると5限目より、3限目などの方が良い。
- ・演出法をその場でやってほしい。
- ・駄作と思われる映画の悪い所、どこがどう悪いのか、どうすれば良くなるのか具体的に教えてほしい。
- ・商業面の話も聞かせてほしい。

V. 学生番号・氏名の記入

	人数	%
記入あり	41	82
記入なし	9	18